

ドクターインタビュー

青木 敏之(あおき としゆき)先生

* 医学博士 皮膚科学会専門医・アレルギー学会専門医 *

今回はお彼岸でにぎわう四天王寺さんの表参道に面した足回りの便利なビルでご開院の「あおきクリニック・かゆみ研究所」青木敏之先生をお訪ねしました。青木先生はアトピー性皮膚炎治療に関しては草分け的なご専門で長い経験と豊富な治療実績をお持ちです。

青木先生は、長年皮膚科の先生としてアトピー治療の現場に携わって来られていますが、長いご経験の中で治療をめぐる移り変わりなどがあればお聞かせいただけますか？

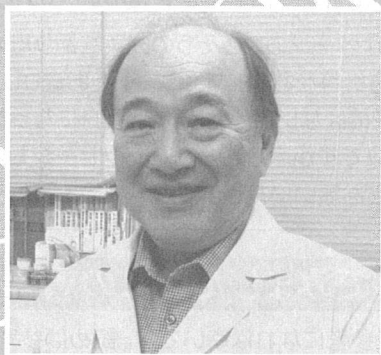
私が皮膚科を選んだころは、アトピー性皮膚炎はIgEアレルギーを伴う不思議な皮膚炎でしたが、当時から最近までアレルギーの役割は皮膚科では重視されずステロイド外用のみでよいとされてきました。しかし最近、花粉由来の皮膚炎の存在が明らかにされたことから少しずつ流れが変わってきました。他方、最近はアトピー性皮膚炎は表皮バリアーの不全疾患として研究がすすめられています。自然保湿因子の前駆物質であるフィラグリンという物質の欠損が話題にのぼっています。これが不足すると肌が乾燥して透過性が増加、そして刺激を受けやすくなりかゆみと炎症をおこすというメカニズムが判ってきました。乾燥対策が治療の中に組み込まれるようになりました。

診察室からみた最近の患者さんの傾向とか、例えば難治化した患者さんやステロイド外用薬について等お聞かせいただけますか？

最近は見守り、美容、介護に従事する人が増えているのでしょうか、手荒れから発症する人が多いですね。花粉で悪化する人も多いです。仕事が忙しく受診しにくいという人がかなりの症状になってから来るケースは多いです。他方、ステロイド怖がる人もまだいます。まれにステロイド外用の仕方が間違っている場合もあります。ガイドラインに皮膚症状に見合う強さのステロイドを用いることになっていますが、強さを合わせて量が少ないという例です。

赤ちゃんの場合ですが、赤かったら何が何でも使うとか、乾燥していたら使うということではないのです。頸、関節の内側などがじくつく時は亜鉛華軟膏でガードするだけで良くなることが多いですね。肌が成熟していないから、少々の症状ではステロイドを使わず赤ちゃんの成長を待ちましようということもありますね。使うとしても弱いステロイドで十分です。ならばどういう時にステロイドを使うかと云うと、僕の基準はとても単純です。ひっ搔くならば使います。「搔くならば使いましよう」とお母さんに伝えます。何故なら搔くと余計に肌を傷めて炎症が進行するからです。それを断ち切るためにも必要で、ステロイドを「使う」「使わない」の最大の基準は「搔くか搔かないか」です。それ以外の基準は僕の場合ないですね。

ステロイドの使い方についても工夫ができると思います。例えば強いステロイドの大量だと確かに気持ち悪いですね。そこで考えられるのは急性症状では皮膚が傷んでいるほど弱い薬でも効くので弱いステロイドからスタートしますが、その代わり大量に用います。そして一定の効果が確認でき、症状が止まったらステップアップします。重症の大人の場合は難しいですね。一定以上の強さのステロイドを症状に応じて長期に亘って使わざるをえない。副作用との戦いですね。そしていちばん悪いのはストレスです。つまり身体的、精神的ストレスですね。これがアトピーの最大の敵と云えますね。身体的過労、精神的過労、もちろん、夜更かし、不摂生などもてきめんに症状に現れます。しかしながら、これらの多くは社会的な原因ですから



青木敏之(あおき としゆき)先生のプロフィール

あおきクリニック・かゆみ研究所 院長
〒543-0052 大阪市天王寺区大道1-8-15 ECS第22ビル
電話 06-4305-8600
医学博士。皮膚科学会専門医・アレルギー学会専門医
昭和10年 大阪府生まれ。
大阪大学医学部卒業、大阪大学大学院医学研究科修了。
1966年から2年間ロンドン大学皮膚病研究所へ留学。
皮膚免疫学の研究に従事する。帰国後、大阪大学医学部助手、
大阪府衛生部保健予防課、大阪府立羽曳野病院皮膚科部長、
副院長を経て、平成11年から現職。

あおきクリニック・かゆみ研究所の治療方針は、アトピー性皮膚炎は、一人一人異なる悪化原因を発見し、患者さんお一人お一人にあった治療をご本人やご家族の皆さまとじっくり相談しながら進めていってまいります。趣味は写真。お好きな山登りで撮影した写真をHPでも拝見できます。最近では患者さんと一緒に山登りすることもあるそうです。

医者ができることは少ないですね。

ストレスがアトピーの原因になっているのですか？もう少し詳しくお聞かせいただけますか？

昔は、アトピー性皮膚炎は裕福な人の病気などと云われていましたが、今は逆になりましたね。ストレスが原因ですからね。お金持ちの人は遊ぶ暇もあるし、うまい料理を食べているだろうし、ストレスが溜まりにくいですよ。若い人たちは就職難で、仕事が見つかっても収入の安定がないなかで複数の下働きの職種をかかえています。ストレスにならないのがおかしいですね。そんな訳で今の時代、アトピーが減らないですね。そういう方が症状悪化で来られますが、気の毒ですよ。社会の現状を診察室から垣間見るようで胸が痛みますね。

最後にアトピーの症状が重く社会生活が難しい患者さんに青木先生から励ましのメッセージをお願いできますか？

赤ちゃんの場合はいずれ良くなりますので心配しないことです。大人で症状の良くない人には副作用のでない範囲で積極的治療をしてQOLを高めて楽しい人生を送って頂きたいと思います。とにかく前向きにチャレンジしてほしい、それが僕の希望ですね。

本日はお忙しいところありがとうございました。